

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

認知症独居高齢者等の実態と地域生活支援等の取組みに関する文献調査

研究分担者 石崎達郎 東京都健康長寿医療センター研究所研究部長
研究協力者 涌井智子 東京都健康長寿医療センター研究所研究員
研究協力者 大久保 豪 立命館大学生存学研究所客員協力研究員
研究代表者 栗田主一 東京都健康長寿医療センター研究所研究部長

研究要旨:認知症独居高齢者等の生活実態を把握するため、研究 1. 独居高齢者の終末期ケアおよび死への意識を把握するための文献調査、および研究 2. 国民生活基礎調査を用いた独居高齢者等の生活実態把握を目的に研究を行った。本研究からは独居高齢者に関する終末期および死を対象とした調査研究が十分に行われておらず、独居高齢者の終末期ケアおよび死における多様な課題を念頭に置いた調査研究が期待されること、また、独居でケアが必要な高齢者の多様な生活・介護実態を踏まえ、支援の拡充が求められていることが明らかとなっている。

A. 研究目的

本研究は、研究 1. 独居高齢者の終末期ケアおよび死への意識を把握するための文献調査、および研究 2. 国民生活基礎調査を用いた独居高齢者等の生活実態の把握を目的とした。

B. 研究方法

研究 1. 文献調査においては、Pubmed と医学中央雑誌刊行会 Web（医中誌 Web）を用いて、以下の検索式を基に検索した。

1. ((elderly or older people or aged people) AND (live alone or living alone)) AND death

2. ((elderly or older people or aged people) AND (living alone or live alone) AND (view or questionnaire or survey or perspective or feelings)

3. 死亡/TH or 死/AL

4. (ひとり暮らし/TH or 独居/AL) or (孤独/TH or 孤独/AL) or 孤立/AL

5. (高齢者/TH or 高齢者/AL) or 高齢/AL

or (高齢者/TH or 老人/AL)

6. (PT=会議録除く)

検索式 1 & 2 でヒットした 3,452 件、検索式 3 & 4 & 5 & 6 でヒットした 931 件について、タイトルと抄録から、対象文献の基準をみだす文献を抽出した。対象文献

1) 65 歳以上の高齢者を対象とした調査文献

2) 独居者を対象とした調査文献

その後、全文を取り寄せて対象文献であるかどうかを判断した。独居高齢者を含む論文では、死について取り扱っているかどうかを確認し、逆に死をリサーチクエスションとしている論文では、対象に独居高齢者が含まれているかを確認した。

研究 2. 国民生活基礎調査を用いて、65 歳以上高齢者における独居者の推移（1998 年－2016 年）、高齢者のケアの必要性と要介護認定の実態、ケアが必要な独居高齢者の同別居介護の実態、そしてケアを必要とする独居高齢者の生活実態を把握した。

(倫理面への配慮)

国民生活基礎調査の解析に際しては、東京都健康長寿医療センター研究所倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

研究 1: 対象文献の選定は、論文検索結果から、論文のタイトル及び抄録をよみ、対象論文 (Pubmed では 14 件、医中誌 Web では 18 件が候補) を吟味した結果 10 件を対象とした。分析の結果、関連文献は、「死および死に行くことに対する恐れ (Fears Surrounding Death and Dying)」、「死の不可避性 (The Inevitability of Death)」、「終末期ケアに関する考えや希望 (Thoughts and Wishes Surrounding End-of-Life Care)」、「死に向けた準備 (Preparation for Death)」、「安楽死/幇助による死 (Euthanasia/Assisted Dying)」、「死後について (After Death)」に分類され、これらのテーマに基づいて、独居高齢者の終末期ケアおよび死についての関連文献を整理した。

研究 2: 国民生活基礎調査の解析からは、1998 年当時は 1 割程度であった独居高齢者が 2016 年には 17%にまで増加しており、また、ケアが必要な独居高齢者に限っても、以前は家族がいない独居高齢者であった一方で、近年は別居の家族がいる独居高齢者が増加 (2016 年は半数) しているなど、従来とは異なる独居の状況が明らかになっている。

また、2016 年における独居高齢者の 2 割が何らかのケアを必要としており、それらの 66% (独居高齢者の 14%) は要介護認定を受けていた。これは同居者のいる高齢者と比較しても高い数字となっている。(同居者のいる高齢者のうち、ケアを必要とするものは 14%、そのうち 70% (同居者のいる高齢者全体の 10%) が要介護認定あり)

D. 考察

文献調査からは、高齢化しつつある社会では独居高齢者の増加が課題となっている一方で、独居高齢者に関する終末期および死を対象とした調査研究が十分に行われて

いないことが明らかとなっている。また、独居高齢者の終末期ケアおよび死における多様な課題が整理された。

また、独居高齢者の生活実態に関する解析からは、日本の独居高齢者は増加の傾向にあることに加え、ケアが必要な高齢者は 2 割程度いて、近年は独居高齢者であっても別居の介護者がいる者の割合が増加していることが明らかになっており、独居高齢者の生活やケアの実態が多様な状況にあることが示唆された。

E. 結論

本研究から独居高齢者に関する終末期および死を対象とした調査研究が十分に行われておらず、独居高齢者の終末期ケアおよび死における多様な課題を念頭に置いた調査研究が期待されること、また、独居でケアが必要な高齢者の多様な生活・介護実態を踏まえ、支援の拡充が求められていることが明らかとなっている。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 涌井智子. (2020). 特集「一人暮らしの認知症高齢者」国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆. 老年精神医学雑誌, 31(5), 2020. (in press)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む.)

該当なし